

経営比較分析表（平成29年度決算）

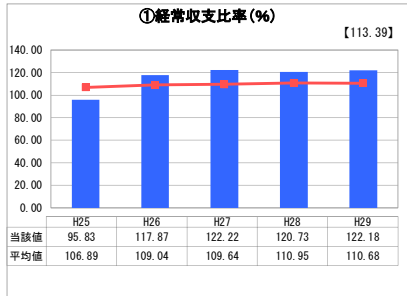
兵庫県 加東市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	97.11	99.56	3,661	

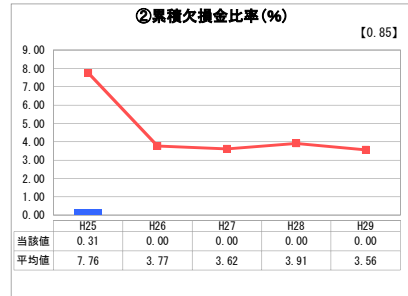
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
40,296	157.55	255.77
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
39,880	97.11	410.67

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

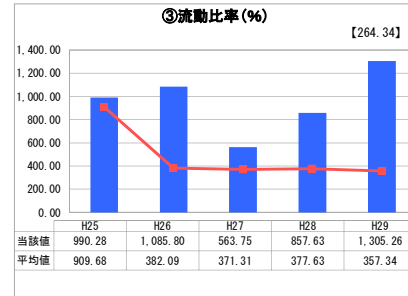
1. 経営の健全性・効率性



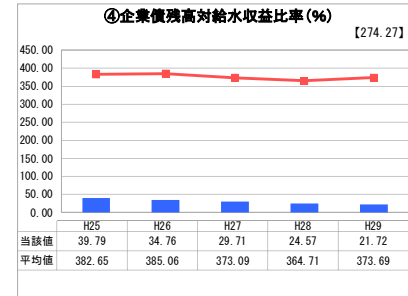
「経常損益」



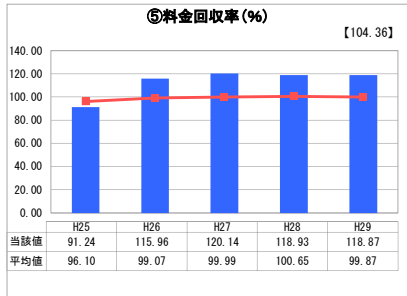
「累積欠損」



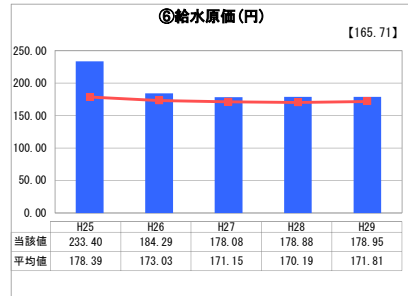
「支払能力」



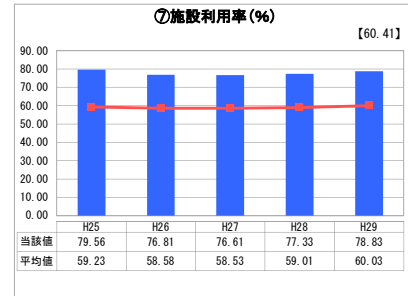
「債務残高」



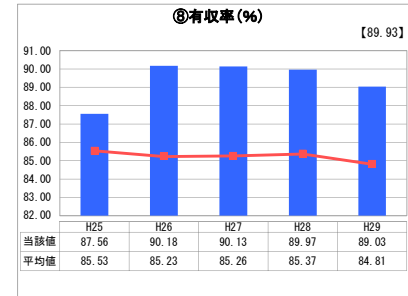
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

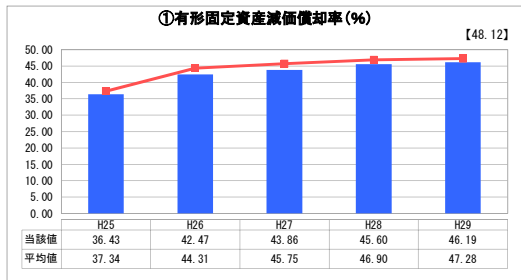


「施設の効率性」

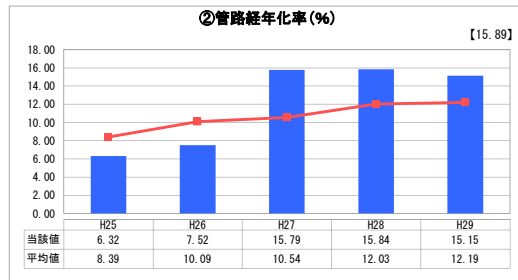


「供給した配水量の効率性」

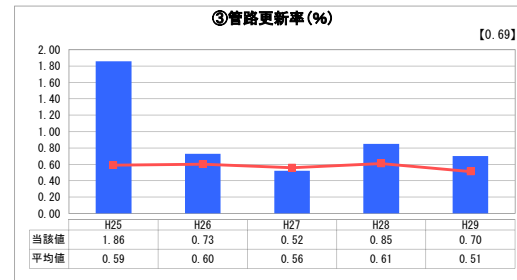
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率は、従来から事業の効率的運営に努めてきた結果、100%を超えており、堅調に推移している。
- ② 給水収益の減少や耐用年数を経過した資産の更新に係る費用の増加等が予測されるため、健全経営を維持する必要がある。
- ③ 流動比率は100%を大幅に超えており、短期的な債務に対する支払能力はある。
- ④ 自己資金及び補助金を活用し、事業執行を行っているため、企業債残高は減少している。
- ⑤ 料金回収率は100%を超えているが、今後増加が見込まれる更新需要への財源確保も見据えて適切な料金を検討する必要がある。
- ⑥ 給水原価は、類似団体と比較するとわずかに高く、さらなる経営改善に向けた維持管理費の削減に努める。
- ⑦ 施設利用率は、類似団体と比較すると高く、効率的に施設を運営しながら、不測の事態に備えて30%程度の余力を残した状態を維持している。
- ⑧ 有収率は、堅調に推移しており、効率よく安定した水の供給ができていく。

2. 老朽化の状況について

- ① 資産全体に対する耐用年数を経過した資産の割合は上昇しており、全国平均及び類似団体とほぼ同水準である。法定耐用年数を経過した後、直ちに更新するのではなく、重要度等を判断しながら計画的に更新を行い、事業の効率化を図る。
- ② ③ 管渠経年率は類似団体と比較して高いが、管路更新率は同水準であり、実使用年限を考慮して計画的に更新を行っていく。

全体総括

老朽化施設に多額の更新費用が必要となる一方、将来の人口減少予測や節水意識の向上等により、料金収入の減少が見込まれる。今後は、平成29年度策定の加東市水道事業経営戦略及び平成30年度策定の加東市水道ビジョンに基づき、水道を取り巻く条件を考慮した上で、施設の統廃合等により合理的かつ効率的な事業を実施する。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。